

平成 27 年度第 2 回総合教育会議

1. 日 時

平成 28 年 2 月 2 日(火) 午後 2 時 30 分～午後 4 時 30 分

2. 場 所

市役所 3 階 301 会議室

3. 会議出席者

芝田市長、和田教育長、澤田委員、柴委員、嘉名委員、岡本委員

4. 会議録署名者

芝田市長、和田教育長

5. 事務局出席者

辻野総合政策部長、中尾教育推進部長、西田教育推進部理事、橋本生涯学習部長、
島田政策企画課参事、藤林教育総務課長、大谷教育総務課長補佐、尾西政策企画課主幹

6. 会議要録

(1) 開 会

事務局

平成 27 年度第 2 回総合教育会議を開催いたします。

(2) 会議運営等について

事務局

本日の会議資料につきましては、お手元の「平成 27 年度第 2 回総合教育会議 資料一
覧」にてご確認をお願いいたします。

(事務局で資料一覧を読み上げ)

事務局

それでは、運営規則に基づき、会議の司会を総合政策部長をお願いいたします。

辻野総合政策部長

総合政策部長の辻野です。これより、本会議の司会進行を務めさせていただきます。よろしく
お願いいたします。

(傍聴者の確認)

事務局

本日は、傍聴希望者が無い旨報告します。

辻野総合政策部長

それでは、議事に先立ちまして、市長よりご挨拶いただきます。

芝田市長

平成28年度からの第5次総合計画においては、「人・自然・歴史・文化輝く ふれあいと創造のまち 河内長野」を掲げています。「人」はマンパワーのまち、人によって支えられているまちを示しています。「自然」は、皆さまご存じのとおり奥河内をさしており、皆で河内長野の緑を大事にしていこうということです。「歴史・文化」は、くろまろを含めた歴史文化を大事にしていこうということです。人・自然・歴史・文化について、皆さまの力で磨きをかけ、発信してまいりたいと考えます。その中で教育の占めるウエイトが大きなものと思っておりますので、本日の会議中で、意見交換ができますよう、よろしく願いいたします。

辻野総合政策部長

ありがとうございます。それでは、皆さまのご挨拶よろしく願いいたします。

和田教育長

教育行政がまちづくりの中核をなしてきていると思います。課題は次から次へと出てきています。市民にとって良いまちづくり、ひとづくりができればと思います。

澤田委員

教育大綱は来年度にむけ初年度の年で大変だと思います。将来の教育をどうするか改革の時です。本市でこれまで築いてきた教育を土台に、これからの目指すべき教育大綱へ大きな責任を感じています。

柴委員

人を育てるところに携わることの喜びを感じています。結果はすぐに見ることができませんが、子どもたちの活躍を楽しみにしています。

私の経験から、子どもたちに様々な体験をさせてあげたいと思います。

嘉名委員

教育大綱ということで、第1回総合教育会議の中でも議論させていただきましたが、新しいまちづくりについて、議論できればと思います。

大学の専門課程の中で、コミュニティスクールのことについてよく聞かれます。まちづくりの核となるものとして、学校を中心とするとまとまりやすいと思います。

学校の現場は大変ですが、地域で支えてもらえる分良いことです。教育が地域の活性化に繋がればと思います。

岡本委員

パブリックコメントの意見の多さに驚きました。多様な意見が出てきており、教育は注目され、大事なところであると感じました。

大綱全体については、良くできていると感じました。大綱素案の中に出てくる、レジリエンスという言葉は大切である。困難なことも復元していけるという意味です。この会議等を通じ、河内長野から国を動かすような提言をしていければと思います。自分たちの地域で子どもたちにできることを真っ当に捉え、夢を言ってそれに向け到達目標を立てていく必要があります。教育の現場を是非見に行きたいを思いました。

(会議出席職員の紹介)

(3) パブリックコメントに対する意見について

辻野総合政策部長

次第2「教育大綱（素案）のパブリックコメントについて」事務局より説明いたします。

事務局

平成27年9月30日に開催されました、第1回総合教育会議におきまして、教育委員会において平成27年度に策定された「教育の鼓動」第1章から第4章を教育大綱（素案）とすることで採択されました。

その後、平成27年11月27日から12月28日まで、教育大綱（素案）にかかるパブリックコメントを実施いたしました結果、29人と2団体から75件の意見が寄せられました。

それが、資料1「河内長野市教育大綱＜素案＞に対するパブリックコメント意見一覧」でございます。

これらの意見に関しましては、その内容が教育に関することや大綱（素案）に関する意見につきましても、大綱（素案）が教育の鼓動をベースにしておりますことから、まず教育委員会で回答案の作成をしていただきました。

それでは、その内容を教育総務課からご説明させていただきます。

（教育総務課にて、パブリックコメント意見及び回答内容について説明）

和田教育長

今回の大綱案をつくるにあたり、意見集約に向け、先週、教育委員会を開催し意見交換を行いました。人格の完成の部分について、社会人、国民という部分を重視できればと思います調整いたしました。

辻野総合政策部長

教育長から議論のポイント等についてありましたが、人格の完成等ほかにもご意見があればご紹介いただきますようお願いいたします。

澤田委員

教育関係となると意見が多くなると思いましたが。教育においては正解というのはありませんが、多様性ということもありますので、しっかり捉えていきたいと思いました。

有事・平時の改革という表現に関してのコメントが多かったように思います。市民にとってこの表現は理解しにくいと思われるので、表現の変更を提案しました。

柴委員

P3「我が国の教育の変遷」の中の（図）社会構造の教育の世界について、情報量が多いこともあり『わかりにくい』等の意見がありました。人それぞれに多様な理解をしてしまうことも考えられますので、大綱にはあえて図を掲載をしないという提案をしました。

嘉名委員

大綱案の基礎となった教育の鼓動も、「人格の完成」を教育の目的の大前提として策定しておりますが、文章からはそのことを市民に訴える力が少し弱かったのかもしれない。そのことから、「人格の完成」という表現を大綱に入れるべきだと考え、大綱案の文章表現の一部の変更を提案した次第です。

岡本委員

公教育の成立は、国を豊かにしていくために、人材の育成をしてきました。

人材の育成は悪いことではなく、社会形成者として、有利な人材を創っていくことは問題ないと考えます。

辻野総合政策部長

皆様からいろいろなご意見をいただきましたが、パブリックコメントに対する、市としての回答はどのようにすればよろしいでしょうか。

芝田市長

パブリックコメントを求めた立場としては、市民の意見を聞けたと思います。基本的には各委員のご意見のとおりでよいと思います。

市の教育の中で、今の社会において、節目が大事であると考えます。節目節目の中で深い思いを持って進んでほしいと考えます。今の子どもたちは、節目無く過ごしていると感じます。このことを今大事に思っています。

小学校と中学校1年ギャップ等において、様々な問題が起こっていますので、0才から18才まではなだらかに切れ目なく指導をしていく必要があると考えます。

平成28年度からは次の段階に入っていかなければならないと思います。

辻野総合政策部長

ありがとうございました。それでは、市としての回答は、資料1の回答案に基づいて、事務局にて作成させていただきたいと思いますがよろしいでしょうか。

(異議なし)

和田教育長

P10「レジリエンス」の注釈の部分は誤解の無いよう、事務局で修正をお願いします。

辻野総合政策部長

事務局で修正させていただきます。

(4) 教育大綱に対する意見について

事務局

パブリックコメントのご意見、回答並びに大綱を修正すべきとされた部分を反映して、資料3のとおり「教育大綱(案)」を策定いたしました。

「教育大綱(素案)」からの変更箇所は、資料2の「河内長野市教育大綱(案)新旧対照表」のとおりでございます。

(河内長野市教育大綱(案)及び新旧対照表を説明)

芝田市長

資料2について、この方向で問題ありません。

事務局

公表のスケジュールとしましては、パブリックコメントの公表は2月末を予定しています。

辻野総合政策部長

事務局の説明は以上です。では、「教育大綱(案)」を「河内長野市教育大綱」とするこ

とでよろしいでしょうか。

(異議なし)

辻野総合政策部長

策定日につきましては、第1回総合教育会議でお決めいただいていたとおり、平成28年4月1日とさせていただきます。

(5) その他

辻野総合政策部長

その他の案件といたしましては、特にテーマは決めておりませんが、市長と教育委員の意見交換の良い機会ですので、教育全般につきましてご意見などございましたら、ご発言をお願いいたします。

芝田市長

サニータウンでの事件については、命に係わる問題であること、また我がまちの子どもたちのことでもあるので、教育委員会でも2度と起きないように取り組みをお願いします。

大津で事件が起き、この事件を受けて教育の改革が起こっています。つまづきに弱い子どもたちというのが現在教育の特徴であると思います。河内長野から教育を変えていくという思いで、進めていただきたい。

和田教育長

今回の事件には、空白のスポットがあると感じます。18才の政治参加の問題もあります。4月の組織機構改革を行う中で、青少年のボランティアグループであるリーディングパルが中心になって、いろいろな活動をやっていくような仕掛けができないかと考えています。

澤田委員

これからの教育現場は大変だと思います。学校教育の組織構造上の欠点として、40歳台、50歳台の教職員が少なくなっています。今後は教職員の人材育成が大きな課題だと思っています。

嘉名委員

今の状態では、現場が回らないことも起こりかねないのではないのでしょうか。現場を支えていく仕組みづくりを教育委員会として考えていかねばならないと思っています。

また、学校だけではなく、地域で教育を支えていく仕組みが必要と考えます。

柴委員

地域によっては、コミュニティスクールが現場の教員たちの支えになっています。教員たちだけではできないことも、地域の人たちの協力でスムーズにできることもあります。地域の人たちの協力で、教員にかかる負担も軽くなると考えます。

岡本委員

地域の力を借りる事で、先生が楽になる仕組みを作らないと進まないと考えます。子どもたちのことを考える上で、先生と地域は仲間であると思います。

辻野総合政策部長

南花台はマンパワーがすごく、教育にも関わって欲しいと思っています。

和田教育長

先進市では、コミュニティスクールからスクールコミュニティになっていっています。子どもたちが地域に出ていくことが将来の姿だと思います。

(6) 閉 会

辻野総合政策部長

以上で本日の案件は全て終了いたしました。

これをもちまして、平成27年度第2回総合教育会議を終了いたします。

ありがとうございました。